

助成年度：平成6年度

[所属] 長野県東部高等学校

[役職] 教諭

[氏名] 加藤 順 (他計37名)

[課題]

あき缶散乱状況の生態学的研究

[内容]

1994年5月から1995年6月まで、長野県小県郡東部町の国道18号線で、あき缶の散乱個数を調査した。1日100mあたり平均0.134個のあき缶が散乱していた。月別の変化については、気温、通過車両台数、缶販売量との明確な関係は認められなかった。これは販売された缶の一部しか散乱されていないことによると推測した。東部町に住む約3400軒にアンケート調査を実施した。新聞の折り込み広告という形で行ったが、18%の回答を得ることができた。実際に缶を散乱させた人は回答しないかとも思われたが、別の資料から推測して、かなり正確な回答の比率であった。美しい町づくりへの提言は、ひとりひとりの心がけであき缶散乱を減らしていくべきだとの回答が50%弱をしめた。道路環境の美しいところとそうでないところの散乱個数を調査した。美しいところのほうが、個数が少なかった。しかし、統計的な検定を行えるほどの調査回数がないので、今後の調査研究が望まれる。